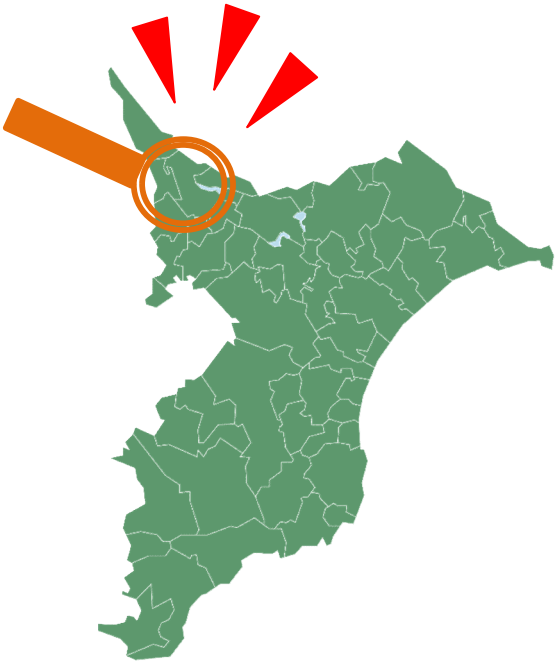
２０２６・１

柏の景気情報

令和８（２０２６）年１月の調査結果



柏　商　工　会　議　所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当）　柏商工会議所 中小企業相談所
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ　：　０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ　：　０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ　：　http://www.kashiwa-cci.or.jp
Ｅ－ｍａｉｌ　：　info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和８年１月の調査結果のポイント）

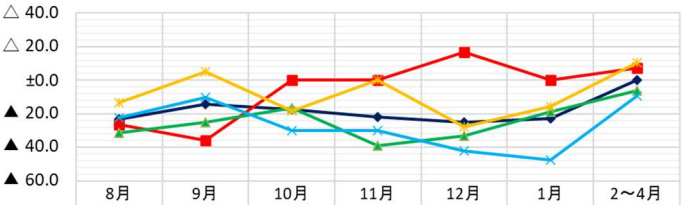
★調査結果のまとめ

回答期間：令和８年１月22日～令和８年２月５日　調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数70

継続する人手不足と収益圧迫。既存従業員の高齢化が進む中、若手人材の獲得は依然として難航。

１月の全産業合計の業況ＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２２．８（前月水準▲２５．０）となりマイナス幅が２．２ポイント縮小した。

各業界、人員確保の難航や高止まりする費用に経営課題は未だ山積み。製造業と卸・小売業では、既存従業員の高齢化が進行するなか、若手の採用を進めているが、募集は伸び悩んでいる。サービス業では、物価高騰による販管費の増加で利益が圧迫されるのに加え、金利の上昇によって顧客の売買が鈍化している。



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2～4月
全産業	▲ 23.4	▲ 14.4	▲ 17.3	▲ 21.7	▲ 25.0	▲ 22.8	±0.0
建設	▲ 26.6	▲ 35.7	±0.0	±0.0	△ 16.6	±0.0	△ 7.1
製造	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 38.8	▲ 33.3	▲ 18.7	▲ 6.2
卸・小売	▲ 22.2	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 42.1	▲ 47.6	▲ 9.5
サービス	▲ 13.3	△ 5.2	▲ 18.1	±0.0	▲ 27.7	▲ 15.7	△ 10.5

★業種別の動向

前月と比べたＤＩ値の動き　⇗ 改善　➡ 横ばい　⬊ 悪化

建設業

「売上そのものは好転しているが、利益率は資材高・物価高の経費の上昇により低下している。先行きの見通しについては政局の動向とも関連することが考えられ、現状予測が困難である」（地質調査）「１月２月は畳工事低迷期。日々やれることをやる」（畳工事請負・畳製造販売）

製造業

「昨年より人材の募集を数度にわたり行っているが、募集者が高齢の人ばかりで採用に至らない。特に営業職については社内的に高齢化が進んでおり、若い人材が欲しいが、Web や HP、求人サイトの掲載、ハローワーク等、いろいろと募集を出しているが若手の募集が殆どない」（自動車・同附属品製造）「原料・光熱費等高止まりにて売上は微増だがそれ以上のコスト増により収益率は悪化。今年の春闘も厳しい状況だが、人材確保もしなければならない」（その他の鉄鋼）

卸・小売業

「仕入単価は上がっているが、売価を上げられているので粗利は増加。人件費を削減したことによって、営業利益は増えてきている。しかし、金利が上がってきているので、借入金の利息支払委が増加傾向。経常利益に影響している」（建築材料卸売）「１２月は予想以上に消費が落ち込み苦戦したが、１月に入り幾分か取り戻せているが大きく伸ばせていない。２ヶ月分の売上を足して例年並の水準。採用は継続しているが、募集は少ないのに加え従業員の高齢化も進んでいる。一方で環境投資（デジタル化・省エネ化）を実施しているので、効率的な経営で乗り切っていきたい」（大型小売店）「年末の購買意欲の反動か、年明けは買い控えムードにみえる」（その他の各種商品小売）

サービス業

「今年に入ってから世界情勢の不安要素が激変しており、物価の高騰、金利も高くなっている。そのような事情で一般の顧客の動きは鈍っている。地価は高止まりしており、売買は低調」（不動産管理）「雪の影響の分だけ売上がダウン。今月も繁忙日に雪の影響を受けそうだが、新規顧客や昨年並に獲得できているので、天候の影響以外は売上に影響が無いと見込む。仕入れや消耗品価格、設備更新価格がコロナ前の倍近くになっており、利益を圧迫しており、賃上げがどこまでできるか不安」（ゴルフ練習場）「食品の消費税減税政策が外食に大きく影響するかが将来的に不安」（日本料理）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲２２．８に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲１７．９で、柏のほうがマイナス幅が４．９ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 22.8	±0.0	▲ 18.7	▲ 47.6	▲ 15.7
CCI―LOBO	▲ 17.9	▲ 15.2	▲ 17.2	▲ 25.1	▲ 12.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 14.2	±0.0	▲ 12.5	▲ 38.0	±0.0
CCI―LOBO	▲ 5.9	▲ 10.7	▲ 6.7	▲ 12.3	4.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 17.1	▲ 7.1	▲ 25.0	▲ 28.5	▲ 5.2
CCI―LOBO	▲ 18.4	▲ 18.6	▲ 19.0	▲ 26.3	▲ 12.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 56.2	▲ 57.1	▲ 63.1
CCI―LOBO	▲ 60.4	▲ 64.0	▲ 57.4	▲ 59.1	▲ 61.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	17.1	28.5	12.5	±0.0	31.5
CCI―LOBO	22.5	39.0	11.9	17.1	28.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 2.8	±0.0	▲ 18.7	±0.0	5.2
CCI―LOBO	▲ 12.6	▲ 8.2	▲ 11.7	▲ 18.2	▲ 11.9

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（1月速報）

調査期間：2025年1月15日～21日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは、長引く物価高が足かせとなり、ほぼ横ばい

先行きは、経営課題の長期化で慎重な見方

1月の全産業合計の業況ＤＩは、▲17．9と前月比からプラス0．1ポイント。

物価高の長期化に伴う消費者の節約志向の高まりを受け、小売業では商店街を中心に買い控えが見られたほか、サービス業では、飲食店を中心に客数が減少し、悪化した。

一方、製造業では、堅調な設備投資・半導体需要を背景に機械器具関係で引き合いがみられ、改善した。

コスト負担への理解が進んでいることもあり、全体として価格転嫁に進展がみられている。取適法の施行で、発注先との取引適正化が進んでいるという声も聞かれた。もっとも、長引く物価高による消費マインドの弱含みや、円安の影響を含む原材料価格や労務費の高騰、人手不足による供給制約などが重荷となり、業況はほぼ横ばいとなった。

先行き見通しＤＩは、▲17．8と今月比からプラス0・1ポイント

高水準での賃上げが続く中、政府・自治体による物価高対策への期待感もあって、消費マインドは持ち直しつつある。

一方、賃金の上昇が物価高に追い付いていない中、一段と消費者の節約志向が高まることが懸念されているほか、円安の長期化を含むコスト高とその分の価格転嫁や人手不足等、依然として経営課題は山積している。また、国際情勢の不安定化を懸念する声も聞かれるなど、先行きは慎重な見方が続く結果となった。

【建設業】

「案件数は引き続き堅調に推移しているが、働き方改革や人手不足の影響により対応可能な工事量に制約が生じており、受注を見送らざるを得ないケースが発生している。また、資材不足や納期遅延も発生しており、工程管理や現場対応の負担が増している」（一般工事業）

「受注は旺盛なため、ある程度仕事を選ぶことができる状況であるが、資材や労務費の高騰で利益率は下がっている」（管工事業）

【製造業】

「半導体関連の需要が旺盛。少なくとも２０２６年中は、半導体製造装置の増産が安定して続く見込みとなっている」（金属製品製造業）

「今月から取適法が施行されたからか、発注先から金型の保管料の協議の提案があった。製品そのものの価格協議は道半ばであるが、これが実現すれば、賃上げ原資も確保できる」（鉄鋼業）

【卸売業】

「取引先から価格転嫁に一定の理解が得られ、販売価格を上げた。もっとも、大手が低価格を維持する中、仕入価格の上昇分をどの程度転嫁するか判断が難しい。価格転嫁後は、販売量が減少している」（食料・飲料卸売業）

「嗜好品に対する節約意識が強く、当社で取り扱う酒の需要は芳しくない」（酒卸売業）

【小売業】

「例年に比べ、新年の初売りの客数が明らかに減少した。物価高に伴う節約志向の高まりから、近隣の量販店に客が流れたのかもしれない」（商店街）

「消費者の値上げ疲れが鮮明。物価上昇に賃金上昇が追いつかない世帯では、新車購入をあきらめて中古車を購入したり、残価設定ローンを選択する顧客が増えている」（自動車販売業）

【サービス業】

「人手不足を背景に当社への内職の依頼が増加している。仕入価格の上昇が続いているため、価格転嫁を段階的に行っている」（事業サービス業）

「コスト上昇分を価格転嫁して売上は増加しているが、上昇分全てはカバーできていない。物価高の中、値上げが消費者にどこまで受け入れられるか不安である。また、中国からのインバウンド客減少の影響を懸念している」（飲食店）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

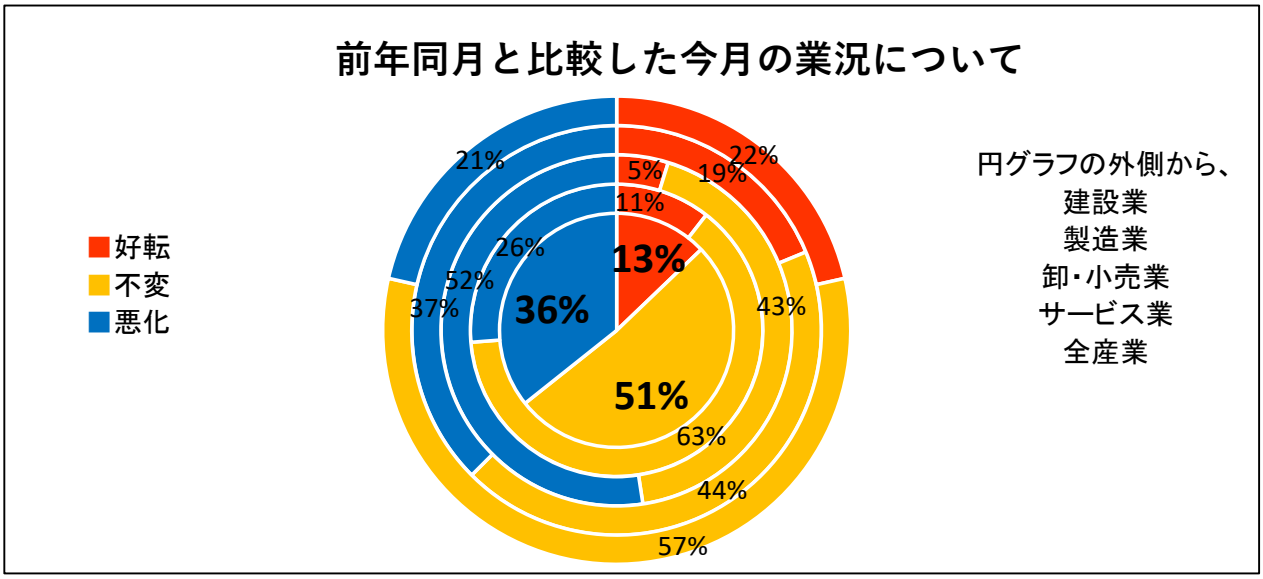
	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
８月	▲18.8	▲13.4	▲ 19.7	▲ 26.6	▲ 27.0	▲ 11.6
９月	▲18.6	▲10.2	▲ 23.9	▲ 24.8	▲ 23.6	▲ 12.3
１０月	▲18.9	▲13.5	▲ 21.0	▲ 24.2	▲ 29.3	▲ 10.0
１１月	▲17.9	▲16.5	▲ 19.7	▲ 24.7	▲ 26.4	▲ 7.7
１２月	▲18.0	▲14.7	▲ 21.6	▲ 23.4	▲ 24.0	▲ 9.9
１月	▲17.9	▲15.2	▲ 17.2	▲ 23.8	▲ 25.1	▲ 12.1
見通し	▲17.8	▲ 14.3	▲ 17.6	▲ 18.3	▲ 22.8	▲ 16.3

令和８年（２０２６年）１月の動向

【業況について】

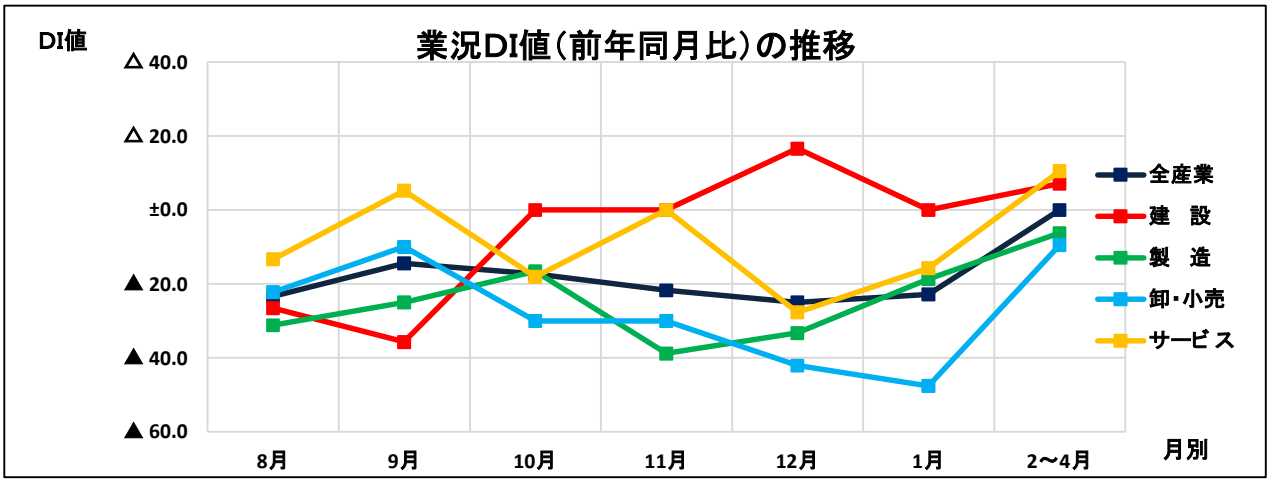
○ １月の全産業合計のＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２２．８（前月水準▲２５．０）となり、マイナス幅が２．２ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（２月から４月）の先行き見通しについては、全産業では、△０．０（前月水準▲６．２）となり、マイナス幅が６．２ポイント縮小した。



業況ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

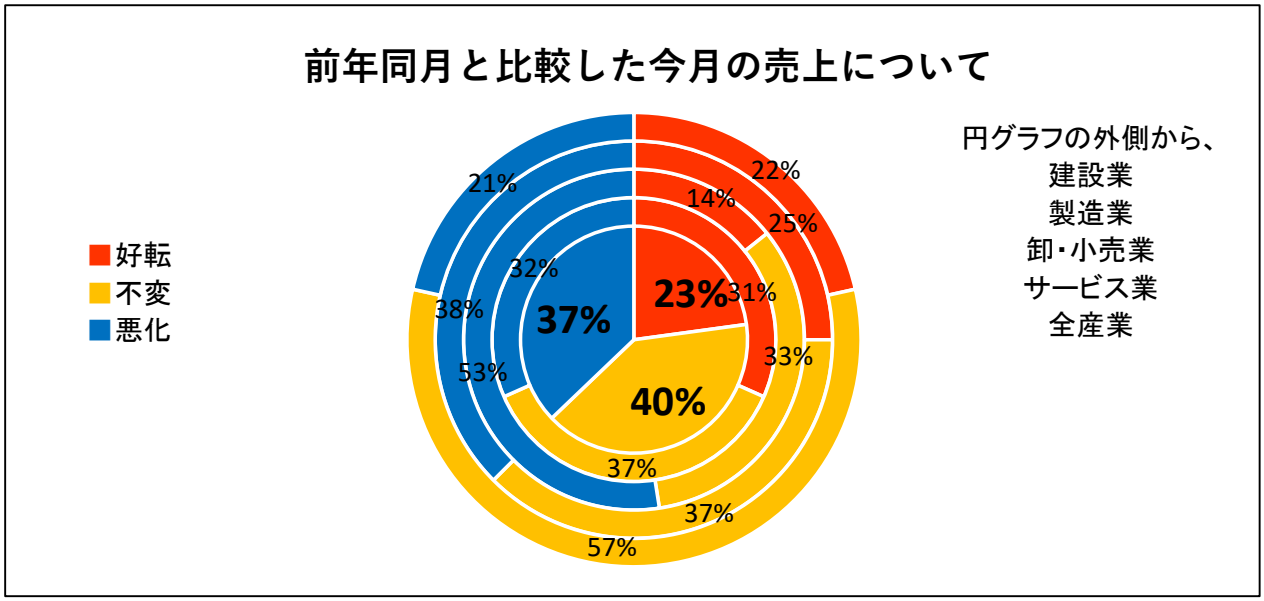
	令和7年 8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	先行き見通し 2～4月	（1～3月）
全産業	▲ 23.4	▲ 14.4	▲ 17.3	▲ 21.7	▲ 25.0	▲ 22.8	±0.0	（ ▲ 6.2 ）
建　設	▲ 26.6	▲ 35.7	±0.0	±0.0	△ 16.6	±0.0	△ 7.1	（ △ 8.3 ）
製　造	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 38.8	▲ 33.3	▲ 18.7	▲ 6.2	（ ▲ 6.6 ）
卸・小売	▲ 22.2	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 42.1	▲ 47.6	▲ 9.5	（ ▲ 21.0 ）
サービス	▲ 13.3	△ 5.2	▲ 18.1	±0.0	▲ 27.7	▲ 15.7	△ 10.5	（ ±0.0 ）



【売上について】

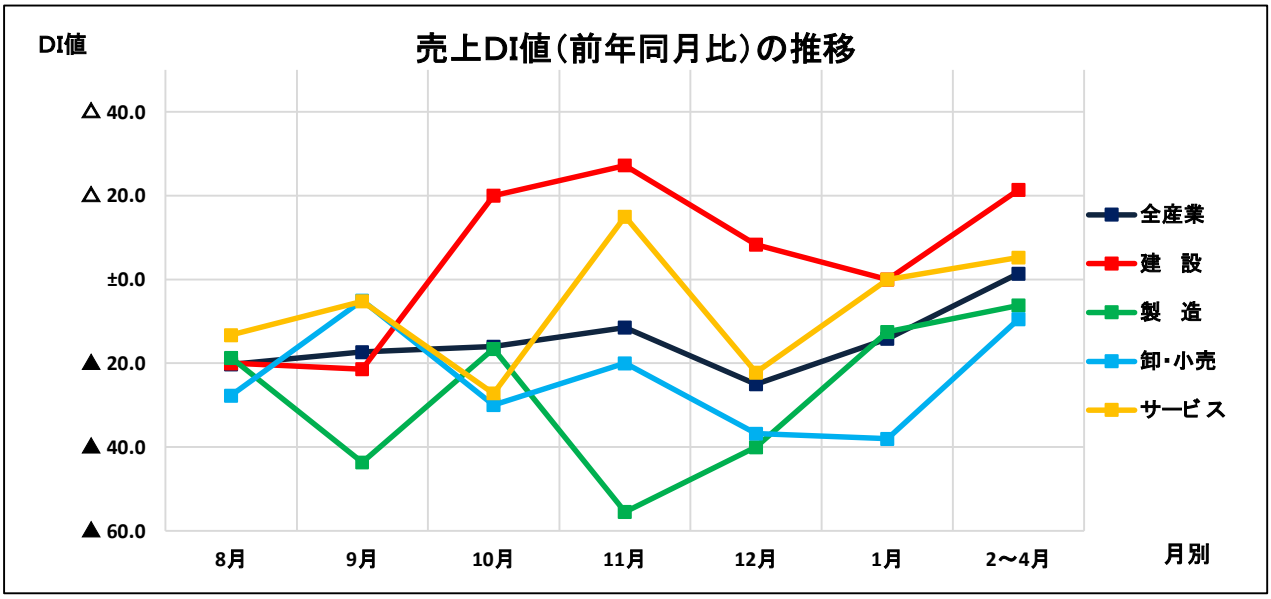
○ １月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１４．２（前月水準▲２５．０）となり、マイナス幅１０．８ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（２月から４月）の先行き見通しについては、全産業では、△１．４（前月水準▲６．２）となり、マイナス幅が７．６ポイント縮小した。



売上ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合

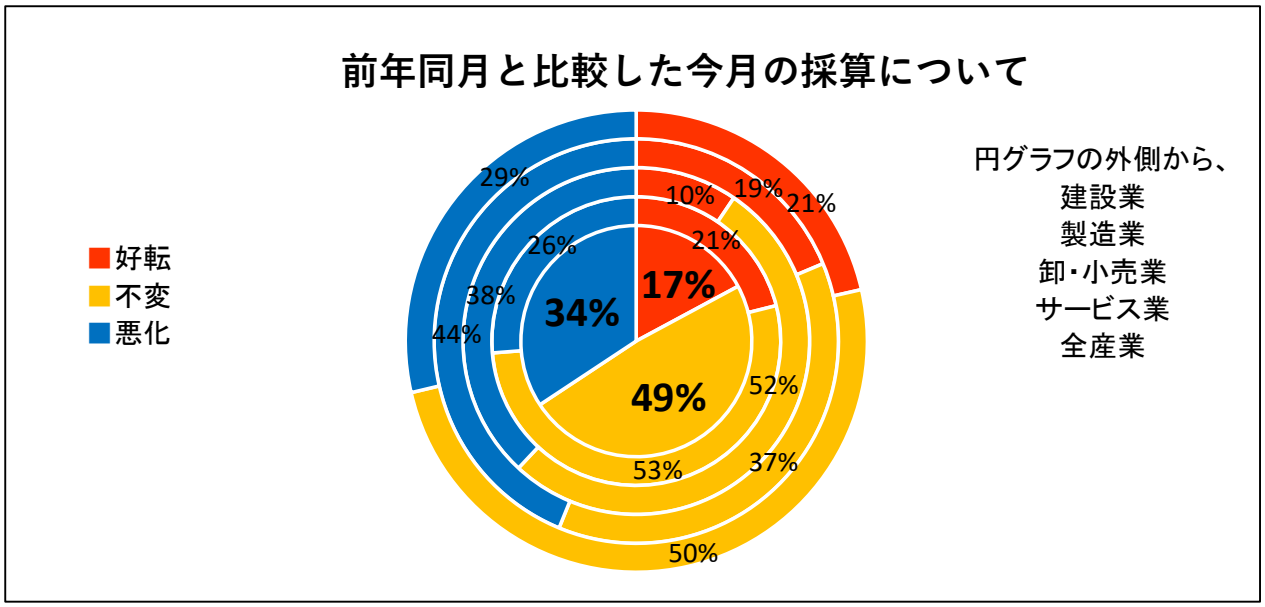
	令和7年 8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	先行き見通し 2～4月	（1～3月）
全産業	▲ 20.3	▲ 17.3	▲ 16.0	▲ 11.5	▲ 25.0	▲ 14.2	△ 1.4	（ ▲ 6.2 ）
建　設	▲ 20.0	▲ 21.4	△ 20.0	△ 27.2	△ 8.3	±0.0	△ 21.4	（ ±0.0 ）
製　造	▲ 18.7	▲ 43.7	▲ 16.6	▲ 55.5	▲ 40.0	▲ 12.5	▲ 6.2	（ ±0.0 ）
卸・小売	▲ 27.7	▲ 5.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 38.0	▲ 9.5	（ ▲ 21.0 ）
サービス	▲ 13.3	▲ 5.2	▲ 27.2	△ 15.0	▲ 22.2	±0.0	△ 5.2	（ ±0.0 ）



【採算について】

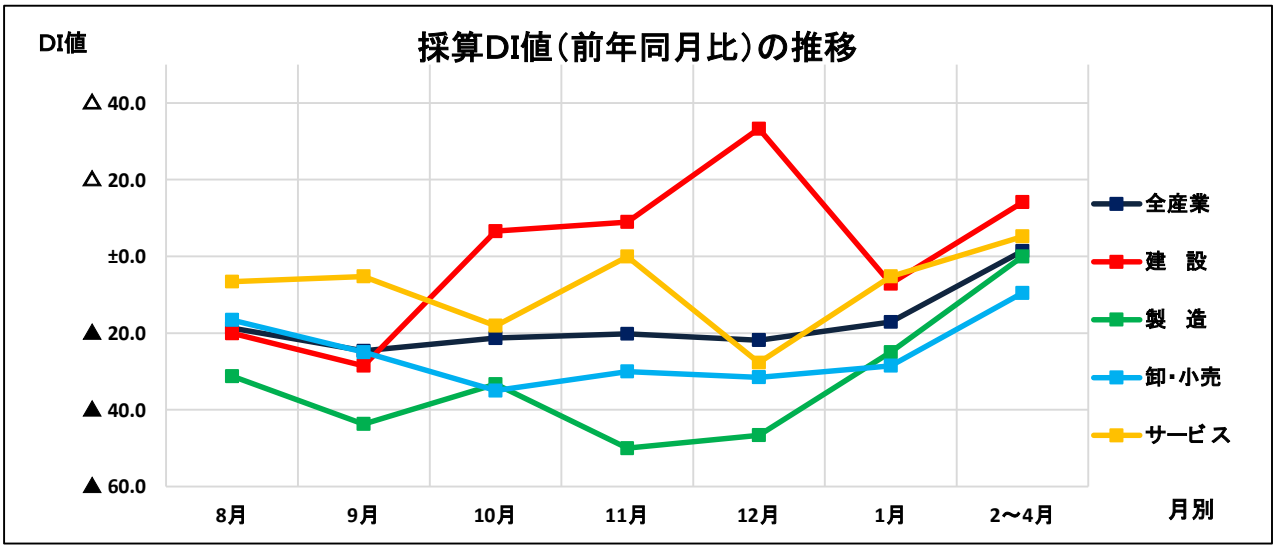
○ １月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１７．１（前月水準▲２１．８）となり、マイナス幅が４．７ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（２月から３月）の先行き見通しについては、全産業では、△１．４（前月水準▲９．３）であり、マイナス幅が１０．７ポイント縮小する見通しである。



採算ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

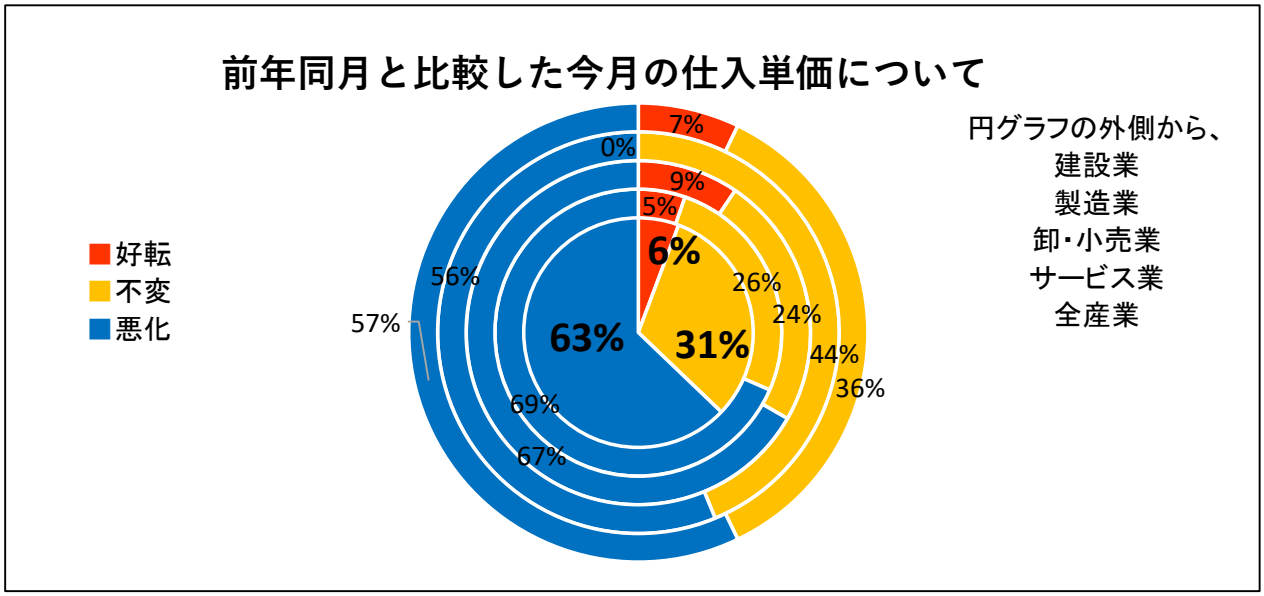
	令和7年 8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	先行き見通し 2～4月	（1～3月）
全産業	▲ 18.7	▲ 24.6	▲ 21.3	▲ 20.2	▲ 21.8	▲ 17.1	△ 1.4	（ ▲ 9.3 ）
建　設	▲ 20.0	▲ 28.5	△ 6.6	△ 9.0	△ 33.3	▲ 7.1	△ 14.2	（ ±0.0 ）
製　造	▲ 31.2	▲ 43.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 46.6	▲ 25.0	±0.0	（ ▲ 13.3 ）
卸・小売	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 31.5	▲ 28.5	▲ 9.5	（ ▲ 21.0 ）
サービス	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 18.1	±0.0	▲ 27.7	▲ 5.2	△ 5.2	（ ±0.0 ）



【仕入単価について】

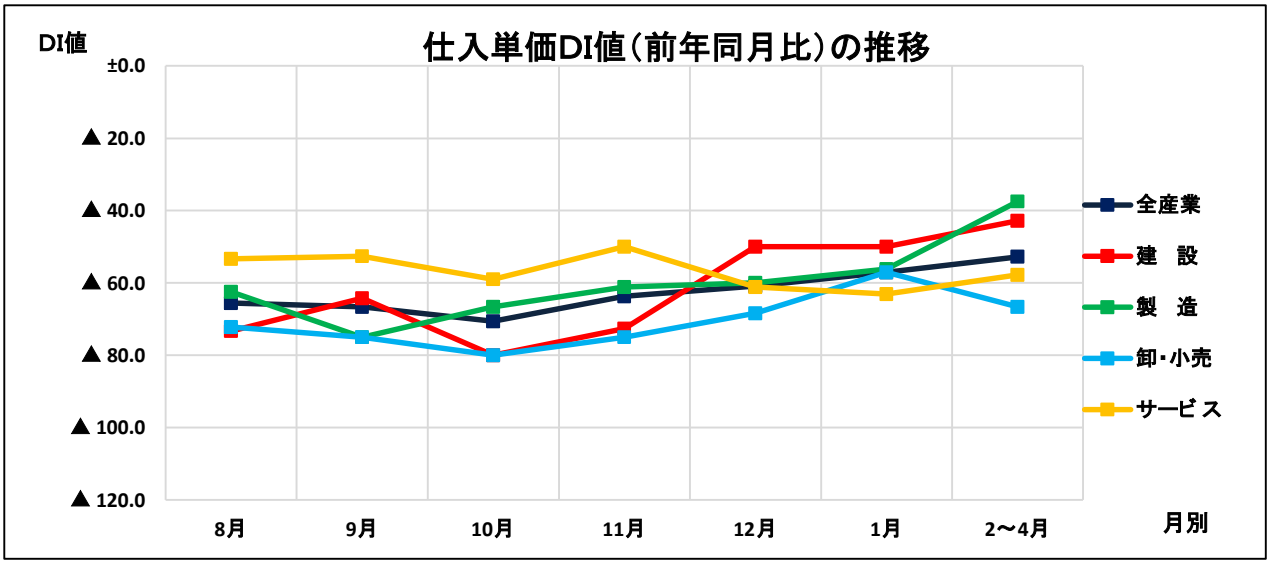
○ １月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲５７．１（前月水準▲６０．９）となり、マイナス幅３．８ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（２月から４月）の先行き見通しについては、全産業では、▲５２．８（前月水準▲５１．５）となり、マイナス幅が５．１ポイント縮小する見通しである。



仕入単価ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

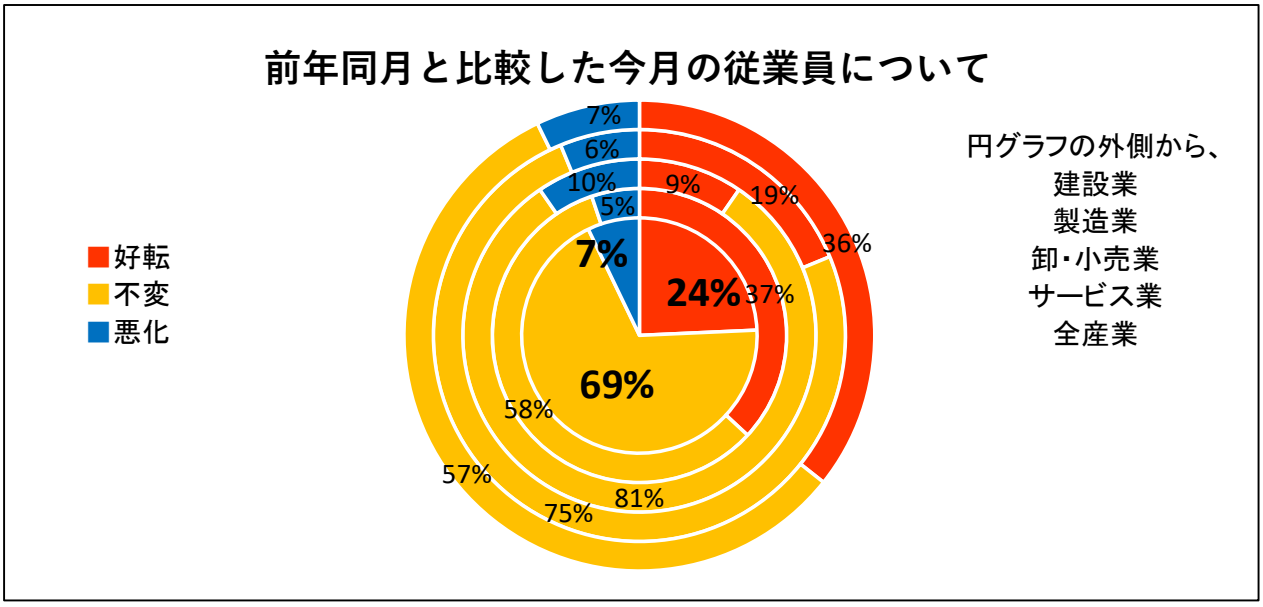
	令和7年					令和8年	先行き見通し	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2～4月	（1～3月）
全産業	▲ 65.6	▲ 66.6	▲ 70.6	▲ 63.7	▲ 60.9	▲ 57.1	▲ 52.8	（▲ 57.9）
建　設	▲ 73.3	▲ 64.2	▲ 80.0	▲ 72.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 42.8	（▲ 45.4）
製　造	▲ 62.5	▲ 75.0	▲ 66.6	▲ 61.1	▲ 60.0	▲ 56.2	▲ 37.5	（▲ 50.0）
卸・小売	▲ 72.2	▲ 75.0	▲ 80.0	▲ 75.0	▲ 68.4	▲ 57.1	▲ 66.6	（▲ 75.0）
サービス	▲ 53.3	▲ 52.6	▲ 59.0	▲ 50.0	▲ 61.1	▲ 63.1	▲ 57.8	（▲ 55.0）



【従業員について】

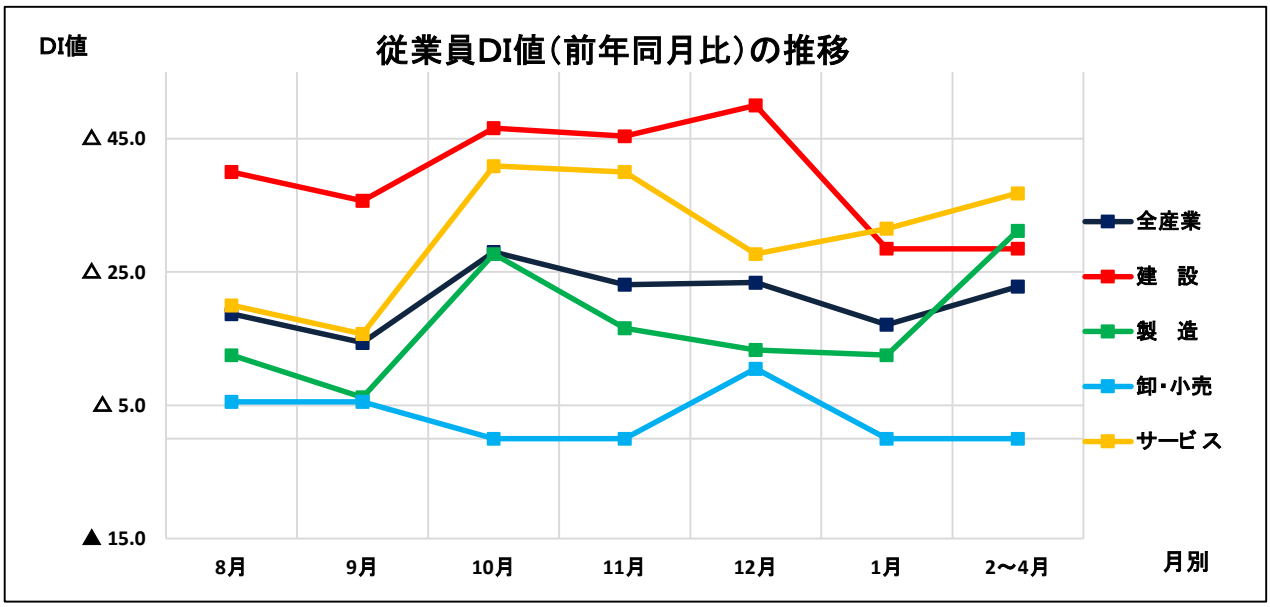
○ １月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△１７．１（前月水準△２３．４）となり、プラス幅が６．３ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（２月から４月）の先行き見通しについては、全産業では、△２２．８（前月水準△２１．８）となり、プラス幅１．０ポイント拡大する見通しである。



従業員ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「過剰」の回答割合－「不足」の回答割合

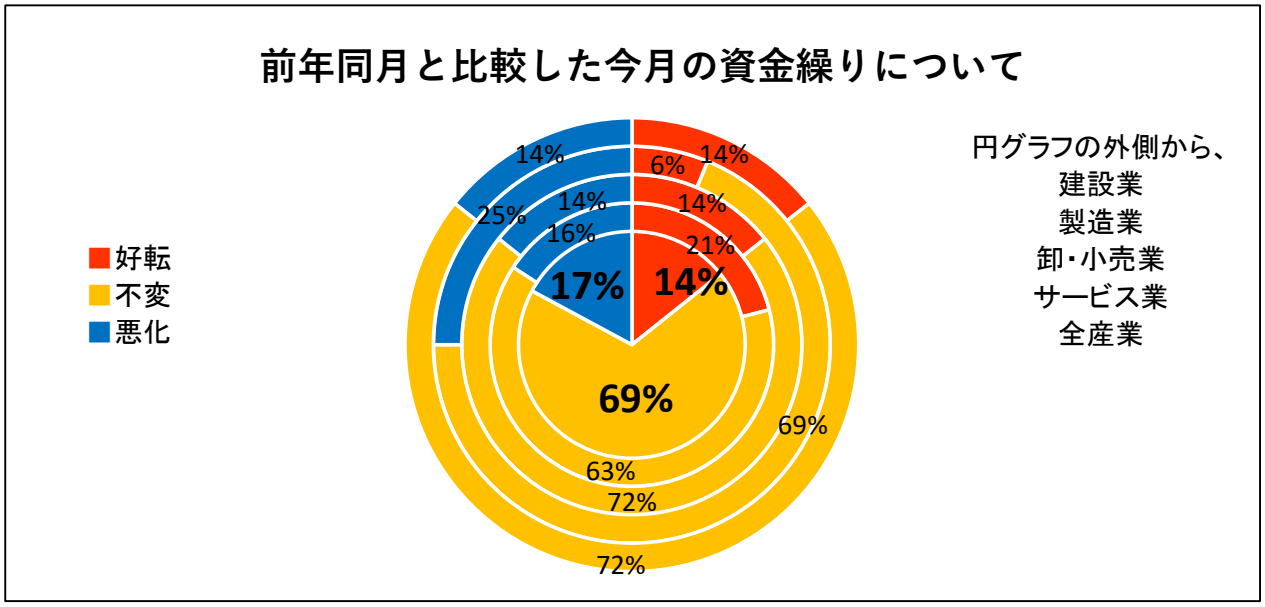
	令和7年 8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	先行き見通し 2～4月	（1～3月）
全産業	△ 18.7	△ 14.4	△ 28.0	△ 23.1	△ 23.4	△ 17.1	△ 22.8	（△ 21.8）
建　設	△ 40.0	△ 35.7	△ 46.6	△ 45.4	△ 50.0	△ 28.5	△ 28.5	（△ 50.0）
製　造	△ 12.5	△ 6.2	△ 27.7	△ 16.6	△ 13.3	△ 12.5	△ 31.2	（△ 27.7）
卸・小売	△ 5.5	△ 5.5	±0.0	±0.0	△ 10.5	±0.0	±0.0	（△ 5.2）
サービス	△ 20.0	△ 15.7	△ 40.9	△ 40.0	△ 27.7	△ 31.5	△ 36.8	（△ 27.7）



【資金繰りについて】

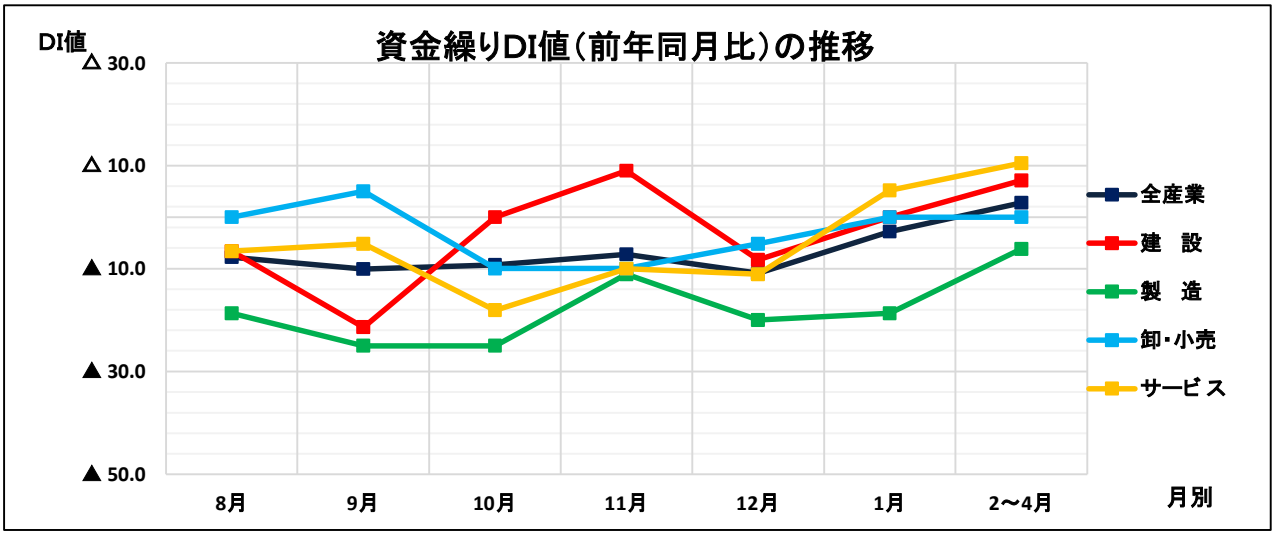
○ １月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲２．８（前月水準▲１０．９）となり、マイナス幅が８．１ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（２月から４月）の先行き見通しについては、全産業では、△２．８（前月水準▲７．８）となり、マイナス幅が１０．６ポイント縮小する見通しである。



資金繰りＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

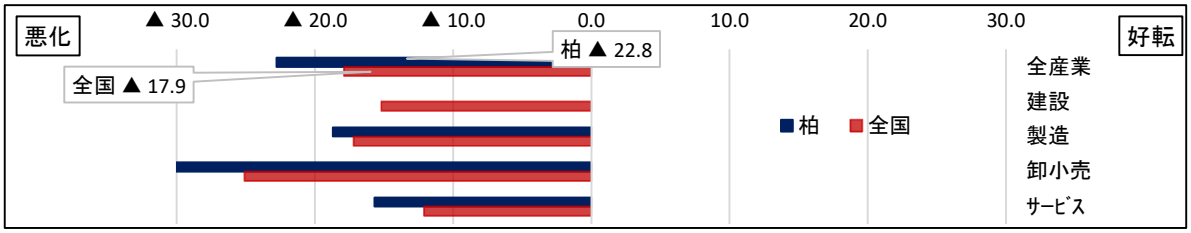
	令和７年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月	（1～3月）
全産業	▲ 7.8	▲ 10.1	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 10.9	▲ 2.8	△ 2.8	（ ▲ 7.8 ）
建　設	▲ 6.6	▲ 21.4	±0.0	△ 9.0	▲ 8.3	±0.0	△ 7.1	（ ±0.0 ）
製　造	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 11.1	▲ 20.0	▲ 18.7	▲ 6.2	（ ▲ 13.3 ）
卸・小売	±0.0	△ 5.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 5.2	±0.0	±0.0	（ ▲ 5.2 ）
サービス	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 18.1	▲ 10.0	▲ 11.1	△ 5.2	△ 10.5	（ ▲ 11.1 ）



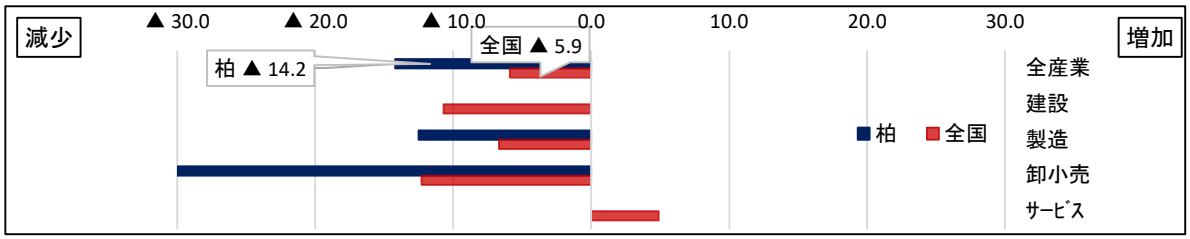
全国（ＣＣＩ－ＬＯＢＯ）との比較

【CCI－LOBOとは】
日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

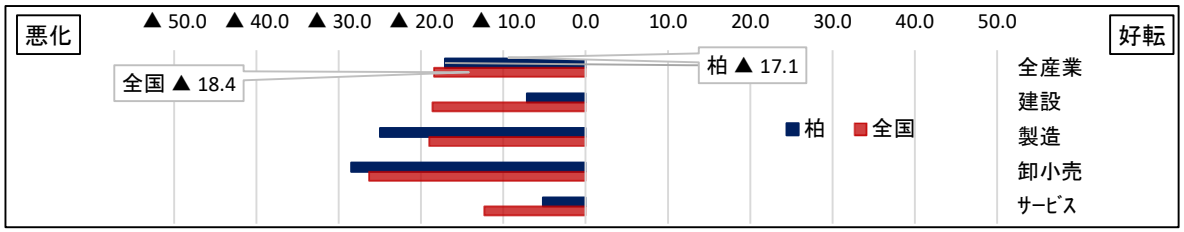
【業況ＤＩ】



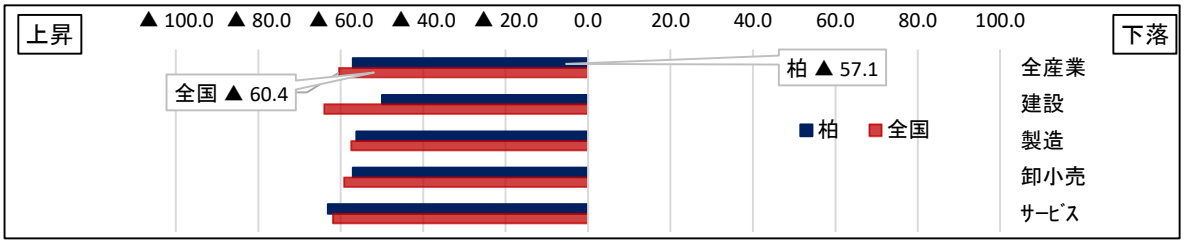
【売上ＤＩ】



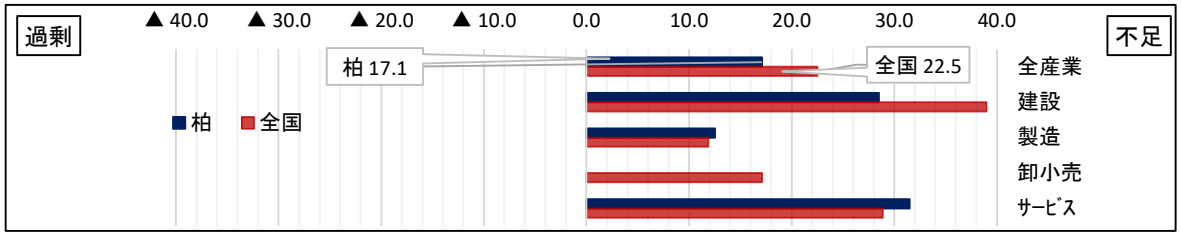
【採算ＤＩ】



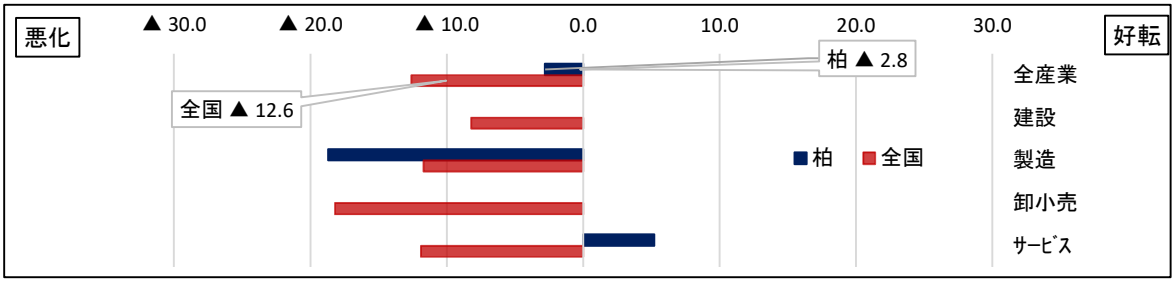
【仕入単価ＤＩ】



【従業員ＤＩ】



【資金繰りＤＩ】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概　　況	業種
建設業	1月2月は畳工事低迷期 日々やれることをやります。	畳工事請負・畳製造販売業
	高市政権に期待したい。	測量調査
	安心して頼める業者を探しています	一般土木建築工事業
	売上そのものは好転しているが、利益率は資材高・物価高の経費の上昇により低下している。 先行き見通しについては政局の動向とも関連することが考えられ、現状予測が困難である。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	医療品容器の新企画がようやくスタートし、活気づいたが、化粧品容器に関しては大きな変化は見られず利益拡張にはつながらない。	プラスチック加工
	納品が年度末に集中している	その他の機械・同部品製造業
	昨年より人材の募集を数度に亘り行っているが、応募者が高齢の人ばかりで、採用に至らない。特に営業職については社内的に高齢化が進んでおり、若い人材が欲しいが、WEBやHP、求人サイトへの掲載、ハローワーク等、いろいろと募集を出しているが若手の応募が殆ど無い。	自動車・同附属品製造業
	原料・光熱費等高止まりにて売り上げは微増だがそれ以上のコスト増により 収益率は悪化。 今年の春闘も厳しい状況だが、人材確保もしなければならない。	その他の鉄鋼業
卸・小売業	12月（特にクリスマスから年末）は予想以上に消費が落ち込み苦戦したが、1月に入り幾分取り戻せているが大きく伸ばせていない。2ヶ月足して例年並みの水準。 値上に抗い一点単価を少しでも下げる努力を継続している。野菜やデリカはバラ売りや少量パックの動きが良く。水産や畜産は定番品の大容量お買得パックが好評である。 お客さま目線で少しでも家計の負担を軽減させる工夫は増々重要。好調であるディスカウントストアーやドラッグストアーに学んでいきたい。 食品やヘルス＆ウェルネスは底堅いが衣料品や住居余暇関連は不安定。冬物在庫はコントロールできているので無理をせず在庫圧縮して春物に切り替えていきたい。 採用は継続しているが応募は少ない、また従業員の高齢化も進んでいる。ただ環境投資（デジタル化・少エネ化）も実施しているので効率的な経営で乗切っていく。	大型小売店
	数年間高騰していた原料価格がスポット的に下落したこともあり、仕入れ、資金繰りの面でだいぶ楽なシーズンとなった。	食料卸売業
	仕入れ単価は上がっているが、売価を上げられているので、粗利は増加。 人件費を削減したことにより、販管費を削減できた。 結果として、営業利益は増えている。 しかし、金利が上がってきているので、借入の利息支払いが増加傾向。 経常利益に影響している。	建築材料卸売
	＊年末の購買意欲の反動か、年明けは買い控えムードにみえる。	その他の各種商品小売業
サー	人手不足が深刻	ソフトウェア業
	柏は西口再開発から高島屋が抜けたことですべてが止まったまま。それを通り越して東口開発などあり得ない。	不動産賃貸業
	今年に入ってから、世界情勢の不安要素が激変しており、物価の高騰、金利も高くなっている。そのような事情で一般の顧客の動きは鈍っている。地価は高止まりしており、売買は低調。	不動産管理業
	物流二法の改正により、荷主側の対応の変化に期待する。	一般貨物自動車運送業

【業種別】業界内トピックス

ビス業	インターネット予約がどんどん進んでいるようですが、一方リアル店舗経営も頑張っているように思える。 高額な商品を購入する人は、やはり後者になるのではないでしょうか。	旅行
	食品の消費税減税政策が外食に大きく影響出るかが将来的に不安	日本料理
	雪の影響の分だけ売上がダウン。今月も繁忙日に雪の影響を受けそうだが、新規顧客も昨年並みに獲得できているので天候の影響以外は売上に影響が無いと見込む。仕入れや消耗品価格、設備更新価格がコロナ前の倍近くになっており利益を圧迫しており、賃上げがどこまでできるか不安。	ゴルフ練習場
	レジデンス賃貸市況は繁忙期中ですが、ファミリー向けの需要が強く供給薄がつづく。	不動産賃貸・管理業

調査要領

回答期間　令和８年１月２２日　～　令和８年２月５日

調査対象　柏市内１７３事業所及び組合にヒアリング

＜業種別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全　産　業	173	70	40.5%
建　　設	38	14	36.8%
製　　造	44	16	36.4%
卸　・　小売	46	21	45.7%
サ　ー　ビ　ス	45	19	42.2%

調査方法と調査票

下記「質問Ａ」をＤＩ値集計し、「質問Ｂ」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問Ａ

質問事項	回答欄 前年同月と比較した今月の水準			回答欄 今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問Ｂ　業界内のトピック（記述式）

※ＤＩ値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ　＝　（増加・好転などの回答割合）　－　（減少・悪化などの回答割合）

※ＤＩ値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振